

授業改善推進プラン

第4学年

東大和市立第七小学校

学習規律等	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしている人を見て、静かに最後まで聞く。 ・家庭学習を確実にやる。(学年×10分) ・授業の開始のチャイムまでに着席し、学習の準備をする。 ・適切な言葉づかいを心がける。 		
	今年度の課題 (育てたい資質・能力)	具体的な授業改善 (主体的・対話的で深い学びの視点を中心に)	評価
国語	○知識及び技能 学習した漢字や語彙を文章の中で活用することに苦手意識がある。語彙力を広げ、自己の考えをもち、読解力等を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字は確実に使って文章を書くように指導し、漢字の定着を図るとともに、語彙力を高める。 ・授業内の小テストや言葉調べ等で、漢字や言葉に関する問題に取り組んだり、読書に時間を確保したりする。 	
算数	○思考力・判断力・表現力等 平面図形や角の大きさに関わる数学的活動に苦手意識がある。日常の事象と結び付けて数理的に処理する技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルテスト診断結果を基に、単元の導入時等で復習に取り組み、既習事項の習熟度を高める。 ・計算ドリルやデジタルドリル等に繰り返し取り組み、既習事項の習熟度を高める。 	・
社会	○学びに向かう力、人間性等 社会的な事象について、既習事項や自己に関連付けて考えることに課題がある。東京都の特色について、資料を活用して比べたり、課題を把握して解決に向けて考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起できる映像資料や児童の住む地域の教材等を活用するなど、課題提示を工夫し、興味・関心を高める。 ・自分の生活と社会的な事象を関連付け、学んだことを生活に生かす意識をもたせる。 	・
理科	○思考力・判断力・表現力等 問題に対する予想を立てたり、結果から考察したりすることに苦手意識がある。既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、実験結果から整理して考察できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、理科の見方・考え方を働かせ、問題を追及する活動を通して、観察や実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・児童同士が予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりする活動を設定する。 	・
体育	○学びに向かう力、人間性等 運動や健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断することに苦手意識がある。活動を通して自己や他者の動きを分析する力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きを見たり、課題解決に向けて話し合ったりできる場を設ける。 ・課題を明確にしたり、場の設定の工夫をしたりして、段階的に技能が身に付けられるようにする。 	・